

注意報第5号

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予察注意報第5号について

このことについて、病虫害発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

気温が高く、トビイロウンカの増殖し易い状況が続いています。それぞれのほ場を広く確実に見回り、発生状況に注意するよう指導願います。

水 稲

1 病虫害名：トビイロウンカ

2 発生地域：県下全域

3 発生程度：多

4 注意報の根拠

- (1) 9月2半旬定期調査の結果、10株当たり払い落とし成幼虫数は5.5頭（平年3.2頭、前年3.7頭、前々年1.9頭）で平年、前年及び坪枯れが多発した前々年より多い。（図1）発生ほ場率は、81.3%（平年42.7%、前年70.2%、前々年56.6%）で平年、前年及び前々年より高い。（図2）
- (2) 早植え水稻では、10株当たり払い落とし成幼虫数が17.2頭で高い傾向であり、一部のほ場で坪枯れが発生している。
- (3) トビイロウンカの増殖し易い気温の高い状態が続いている。福岡管区气象台8月31日付け発表の1か月予報では、気温は平年より高いことから、今後ともトビイロウンカの発生に好適である。

5 防除上注意すべき事項

- (1) 本田防除がなされていないほ場や防除効果が不十分なほ場では、今後発生密度が高まり、坪枯れの恐れがあるので確実にほ場を見回り発生状況に十分注意を払う。
- (2) 本虫の発生密度は、地域間、ほ場間に差がある。また、同じほ場でも局所的に密度が高くなるので、ほ場全体を広く見回り、発生状況を必ず確認する。中晩生品種は、収穫まで期間が長いので発生状況に注意する。

要防除水準を超えているほ場は早急に防除を行う。

**要防除水準：9月上旬、10株当たり30頭**

- (3) 出穂後は、薬剤が株元に到達しにくくなるため、**株元に確実に薬剤が届くよう散布す**



散布後は必ず薬剤の効果を確認し、効果が認められない場合は追加防除を行う。  
(4) 農薬の使用に当たっては、農薬の使用基準を厳守し飛散防止に努める。

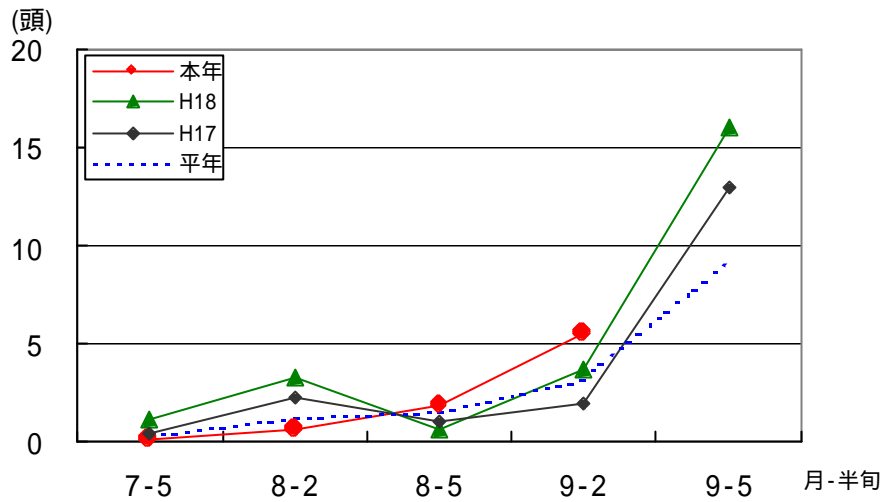


図1 10株当たり成幼虫数

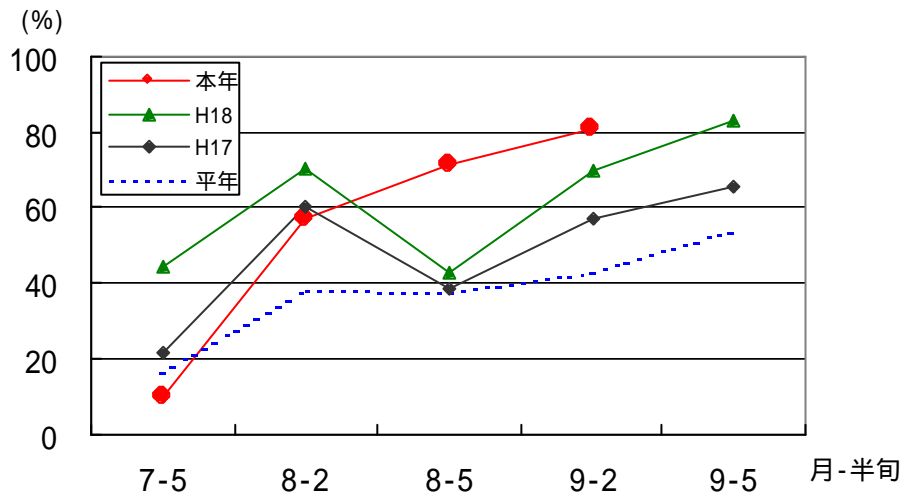


図2 発生ほ場率の推移